

三好市まちづくり条例を考える市民委員会のまとめ(第7回)

テーマ : 自治の理念、市民の権利・責務、市民参加、協働に関すること

三好市の自治の理念、原則

- 市民がまちづくりの主体である
 - 市民主役とは、一人ひとりが町・市づくりをする意欲を持つこと
 - 一人ひとりが責任を持って進めていく
 - 市民も行政の施策に責任の一端があると認識すべき

- 古き良きコミュニティ・地域の助け合いを基本としたまちづくり
 - 助け合いの精神をもう一度作る
 - まず身近な活動から始めることが大切

市民の権利、義務

- 市民は地域の一員としてまちづくり参加する責務がある
 - 自分たちが治めるという意識付けが必要
 - 会に参加して1つでも発言する

市民参加の原則

- 多くの市民が参加できるような環境整備を進める
 - 各年代が参加し、意見を反映できるようにする
 - 住民活動への積極的な援助が必要
 - 行政はもっと市民の参加を促すように努力すべき

- 行政は市民と協働でこれからのまちづくりを進める
 - 市民、行政、議会の役割の連携
 - 市民の活動に行政職員も入ってもらう
 - 行政も市民も意識改革が必要
 - 市民のまちづくりに対する意識改革
 - 市民参加に対する職員の意識付けや研修が必要

市民参加の環境整備、仕組みづくり

□ 行政の公聴機能、対話機能の充実

- 話合いの場を定期的につ
- 目安箱みたいな物があれば
- 行政窓口を作る
- 意見を出せる雰囲気を作る
- ミニ出前役場の開催
- 各種手段による広報の充実

□ 総合支所を協働の窓口として拡充する

- 支所を住民と行政の協働、連携の窓口として充実させる

□ 審議会、委員会等の会議開催の工夫

- 各会議に色々な年齢層が参加できる仕組みづくり
- 会議の開催等市民参加できる時間にする

□ まちづくりの担い手、人材の育成を図る

- 青年組織、若者の組織の育成
- 年代別リーダーの育成
- 参加していない人、若い人の意識を高める
- 高齢者の能力を有効活用してほしい「人材バンク」など

□ まちづくりに参加しやすい環境整備

- (まちづくり活動や会議等に参加する場合の) 職場の協力、理解が得やすくする
- 身近で提案できる場が必要
- どんな人も受け入れることが大事、許容力
- 参加して楽しい、得る物があるような活動を考える

子どもの参加、若者の参加

□ 若者の参加を促す

- 若者、子供の巻き込みが重要
- 若い人との交流を図る
- 若い人の考えを取り入れる
- 若者グループとどう協力するかが鍵

- 若者とコミュニケーションを取る場所が必要である

□ 子どもの参加、子どもの郷土愛やまちづくり意識の教育

- 子供を入れて一緒にやる
- 家庭、学校での植え付けが重要
- 伝統文化、郷土芸能を通して多くの者が集う手立てを考える
- 集まりが少なくなった、祭りなどが廃れてきた
- 地域の祭りに子供を参加させ、郷土の伝統を伝承してゆく
- 郷土を守る意識を育てる
- 家庭の中から、教育の現場から、子供を育む努力が必要
- 郷土愛、文化を大切に作る心を育てる

コミュニティ、市民活動について

□ 地域コミュニティ（自治会など）の位置づけ

- 自治会組織を活用する
- 町内会組織を強化する
- 自治会は定例の開催をすることを旨とする
- 移動市長室を開催する
- 自治会のあり方について、行政を含めて考える
- 町内の色々なグループに声をかけて協力する
- 日常生活について話し合える場所が欲しい
- 地区リーダーを育てる
- 月1回の集まりの時に色々意見を聞く
- ネットワーク作り、情報の共有

□ まちづくりの担い手組織、団体の支援

- 市民団体への支援、補助金の出し方を見直してほしい
- 市民団体への補助金のあり方

その他

□ 議会への参加

- 議会に市民が直接意見を述べる機会が欲しい